

金曜コラム - 「スポーツを通じて」社会を革新しよう**- ジョン・ユンス (スポーツ評論家・聖公会大教授)**

去る 2 月 7 日、文化体育観光部は「スポーツ革新委員会」を構成した。文体部をはじめ、企画財政部、教育部、女性家族部などの次官 4 人と国家人権委員会の次官級常任委員が参加した、いかにも国家レベルでの革新の意志が強く積まれた委員会だ。ここに選手出身を中心にして、スポーツと人権関連の学者や活動家など 15 人が民間委員として参加している。

発足当初は「スポーツをよく知らない人」で構成されたひどいマタドール (訳注: Matador、闘牛士) まであったが、「とんでもない誹謗は、その方向が正しい証拠」というニーチェの信念の下、革新委はすぐに韓国スポーツの美しい大転換のための各種勧告を順次発表する予定である。

話が出たついでに、女子バレーボール代表選手として脱アジア級「巨砲」として活躍した後、学者の道に入って長い間、無名の女性選手を暖かく包み込んで育てた金ファボク、2002 年ワールドカップ 4 強の主役で、欧州に進出して銀河系最高の選手たちと燃えよドラゴンを競った後、幼少年サッカーの技術革新に邁進している李ヨンピョ、冬季オリンピックモーグルの先駆者として選手たちの人権侵害について誰よりも怒り、また、その改善のために献身するソ・ジョンファなどが参加している。

ここでプロ選手出身であり、優れた分析と解説でよく知られているが、実は「勉強する学生選手」という先進的なユース成長モデルを早くから実践してきた李ヨンス、またそのような技術革新に必要な理論と政策を 20 年以上研究してきた李ヨンシク、リュ・テホ、李デテクなどの参加は、革新委が韓国スポーツの内と外、その理論と現場、その現在と未来を同時に眺望する、まさに顕微鏡と望遠鏡を同時に備えたところであることを確証する。

ここにスポーツを人権と文化の観点から着実に見てきた専門家の三、四人が結合した。これも今日のスポーツが持つ社会的複雑さと文化の多様性を考えると不可欠である。しかもこの革新委が「趙ジェボムコーチの性的暴行」という、決して「個人の逸脱」と片付けることができない数十年の累積された暴力の構造の致命的な弊害が発生したことを考慮すると、極めて当然の構成とすることができる。

その二ヶ月余りの活動中、革新委の立ち上げ根拠とその妥当性は「残念ながら」より明らかになっている。暴力と性暴力に集約されているスポーツ界の構造的矛盾は、まるで濛濛とたちこめた微細粉塵のような複合的なものであることが確認されている。これに対する革新はスポーツ界全体を貫流する時代的使命である。大韓体育会が事態の嚴重さを認識して体育システム革新委員会を発足させたことでも確認される。大韓体育会が鎮川選手村の安全施設の拡充、訓練管理指針の改善などの努力をしているので、それがすぐに現実のものとなることを願う。

それにしても国家レベルでの抜本的な政策判断が必要である。国は数十年の累積された国家主義と勝利至上主義を自ら改善していないし、それによりあらゆる不正腐敗と恐ろしい人権蹂躪が繰り返されてきた。国は自分で解決できなかった、それで時には傘下機関の問題のように目をそらしてきたスポーツの制度、条件、文化を革新しなければならない。企画財政部、教育部、女性家族部などの次官が革新の上に参加する理由はまさにここにある。

大韓体育会もできることなのに、国が介入してからは決してしない。大韓体育会が行うことがあり、国が行うことがある。現場の遅れた施設と環境は大韓体育会が改善すればよい。国はそれより総体的で長期的なスポーツ政策の革新を図る必要がある。国民の生活と関連するすべての政策診断と転換は国家の義務である。

このような観点から見ると、巷の「李ギフン体制揺らぐ」や「エリートスポーツ殺し」などの言葉は、聞いてすぐ耳を洗うほど対応の価値もない凶悪な饒舌だ。考えてみて欲しい。国がなぜそのようなことを企てるのか、さらに民間委員がなぜそのような厳しいながらも一握りの価値もないことのために私生活を投げうって週末もなく活動するのか。

革新委の目標は国家に国家の義務を厳しく喚起させるものである。幼い頃から誰もがスポーツを楽しく接し生涯身体の喜びと健康を維持するようにすること、その中の優れた子供は人権と文化と学習の欠乏がない条件で、科学的なシステムと相互尊重の文化に育てられること、懸命に訓練することで汗を流すことはあっても根深い暴力構造によって血の涙は流さないようにすること、多くの指導者たちの労働が適切に評価され、その処遇が改善され、スポーツの専門家がこの社会で尊重されて生きていけるようにすること。これを疎かにして、数多くの弊害と不正と暴力が発生したので、国家レベルでスポーツ界全般の構造的矛盾と不正を痛烈に再点検して、将来、「スポーツを通じて」韓国社会を文化的、社会的、人間的に先進化させなければならない。革新委はそのような理由で発足したものである。

スポーツは十分その可能性がある美しい分野であり、そのリーダーは十分にそれをこなすことができる最高の専門家である。この瞬間スポーツは「ツール」ではなく「価値」へと発展し、このような時の選手や指導者たちは、長年の偏見から脱し本当に美しい社会的尊重まで受けることになる。

このような次元で見ると、大韓体育会長をはじめ、今、私たちスポーツ界で権威と名望を少しでも持った人たちは喜んで同意して参加しなければならない。これを、何か「揺らぐ」や「殺し」などのひどい言葉で歪曲するなら、それこそ選手たちの血の涙の上に座って長年の旧習が投げた三文の（訳注：価値のない）醜い権威に浸り、自ら革新の対象になってしまう格好だし、何よりも新しいスポーツ環境とより良い生活の安定を望むすべてのスポーツから、必ずソッポを向かれることになる。

*この記事は4月1日京郷新聞オピニオンコラム「ジョン・ユンスのオフサイド」に掲載された記事です
原文リンク

http://news.khan.co.kr/kh_news/khan_art_view.html?artid=201904012047015&code=990100

01 連合ニュース 2019.4.11

【 南北体育交流協会、6月に平壤でアリススポーツカップ開催 】

南北体育交流協会（理事長金ギョンソン）が6月に平壤で第6回アリススポーツカップ国際ユース（U-15）サッカー大会を開催します。また、8月には南北単一チームをスペインのマドリードで開催されるスペインのユースクラブ大会に送り出します。

南北体育交流協会は11日、京畿道高陽市一山西区ウォンマウントで第6回アリススポーツカップ国際ユースサッカー大会の発足式兼2019事業発足式を開きました。今年で6回目を迎えるアリススポーツカップ国際ユースサッカー大会は、6月29日から7月9日まで平壤で開かれます。

欧州4チームとウズベキスタン、中国、ベトナム、オーストラリアをはじめ、江原道選抜チーム、漣川郡選手団、ハナ銀行選手団、北朝鮮選手団など計16チームが参加し優劣を競います。これに対して金ギョンソン理事長は「国内選手団は、金剛山を過ぎて元山につながる陸路を通して訪朝することになる」と説明しました。

7月には京畿道高陽市で4カ国国際女子U-19親善サッカー大会を開催します。北朝鮮4・25体育団のU-18女子サッカーチームが訪韓して大会に出る予定です。南北体育交流協会はまた、南北ユース男女単一チームを設け、8月、スペインマドリッドで開催されるスペインの国際ユースサッカー大会にも出場することにしました。南北ユース単一チームは一ヶ月間、国内で合宿を行った後、スペインのマドリッドに行くことにしました。南北ユース単一チームの訓練課程と大会参加のプロセスは、ドキュメンタリーとして製作されます。

南北体育交流協会はサッカーだけでなく、ゴルフ、ボクシングで南北体育交流の外縁を広げることになりました。来る8~10月には平壤で国際女子ゴルフ大会を開いて、北朝鮮の15~17歳の女子ゴルフ有望選手支援も行うことにしました。また、「韓国と北朝鮮のボクシング有望選手の世界チャンピオンを作る」プロジェクトを通じて、2年以内に北朝鮮から世界チャンピオンが排出できるよう支援するとしています。

原文出所

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20190411171300007?input=1195m>

02 京郷新聞 2019.4.8

【 人権委、体育界被害者保護する 】

国家人権委員会が体育界の暴力・性暴力事件において選手人権保護システムなどをチェックするために、職権調査を行うことにしました。

人権委は5日、常任委員会で体育界の暴力・性暴力被害者の人権保護システム全体の職権調査を決定したと8日、明らかにしました。2月末に発足した人権委傘下の「スポーツ人権特別調査団」が約1ヶ月余りの被害実情の受付をした結果、体育団体の被害者保護措置など問題を確認したため下した決定です。

人権委は「被害者の保護措置欠陥、加害者と体育団体の関係者による2次被害など、これまでスポーツ界の内外で提起された体育団体の被害者保護システムの問題点を確認した」とし「一部の実情事例だが、このような問題点が各事件で共通に提起されていることを考慮すると、このような人権侵害が特定のスポーツ団体や種目のみに限ったことではなく、同様の制度を運営するスポーツ界全般の慣行に広がっている可能性が高い」と職権調査の趣旨を説明しました。

人権委の関係者は「暴力・性暴力事件が受理された時、下位機関として事件を通知しながら事件の処理自体が遅れたり、適切な調査が行われていない点、事件関係人等が介入され、2次被害が発生している点などを多数の実情で確認した」と言いました。人権委は職権調査時の学生・成人選手、障害者・健常者の選手を含めてすべてのスポーツ団体、体育行政の主務省庁であり、管理・監督機関である文化体育観光部、教育部、教育庁と各学校等に至るまで調査範囲を拡大します。

職権調査の主な内容としては、体育団体で処理した暴力・性暴力事件の処理過程と結果をはじめ、最近人権委に提起された陳情事件と各種情報提供、スポーツ団体自体のガイドラインの履行実態などです。人権

委は調査の結果、被害救済や緊急制度補完が必要な場合、関係政府機関と体育団体に迅速改善措置を要求することにしました。職権調査の結果は、選手等の実態調査の結果と総合して、国家レベルのスポーツ界人権改善方案を用意するために活用する予定です。

原文出所

http://news.khan.co.kr/kh_news/khan_art_view.html?artid=201904081311001&code=940100

03 ハンギョレ 2019. 4. 10

【 自治体長は体育会長兼職禁止... スポーツ界の「毒杯」なのか 】

「本当に心配だ。スポーツ界が政界になりそうだ。」

体育会の自律性と独立性のために推進した政策がむしろ趣旨と逆体育界の葛藤と混乱をもたらしたら、どうでしょうか？ 国会文化体育観光委が主導して作成した地方自治団体長の体育会長兼職禁止（国民体育振興法 43 条 2 項新設）の後遺症が尋常ではありません。去る 1 月 15 日に可決された法律が来年 1 月 16 日から発効されるので、その前に 17 の市・道体育会と 228 の市・郡・区体育会の会長を一斉に新たに選ばなければなりません。

ある地方体育会事務局長は「団体長と政党が違ったり、将来の政治的競争相手が体育会長になったりすると困ります。お互いに協力すれば良いのですが、葛藤する事になると従来の体育予算と実業チーム運営、地方体育会職員の身分まで大きな変化が起きるでしょう」と不安でした。

韓国のエリート体育で自治体が占める割合は非常に大きいです。大韓体育会が集計した 2017 年 17 の市・道体育会予算（5172 億ウォン）と 228 の市・郡・区体育会予算（4896 億ウォン）は、ほぼ 1 兆ウォンに達します。これらの地方体育会が運営したりサポートしたりしている実業チームは、787 個の国内全体実業チーム（977 個）の 80.55%です。概して人気のないアマチュア種目が多いです。政府が大韓体育会に年間 3500 億ウォン前後を支援しているのと比較すると、韓国のエリートスポーツを支えるために地方政府が数十年間の財政の 3 分の 2 以上を背負ってきたと見ることができます。

大韓体育会は昨年の法改正の過程で「団体長が体育会長を引き受けず民間会長が選出された場合、予算の確保などの対策が必要だ」との立場を伝えました。法司委（訳注：法制司法委員会）専門委員や行政安全部の方でも綿密な議論が必要だという立場を明らかにしています。実際、1962 年の国民体育振興法の制定以来、自治体の首長は職権上の体育会長を務め、韓国のエリート体育の基礎を磨いてきたのが事実です。選挙を準備しなければならない大韓体育会は実務タスクフォース（訳注：緊急性の高い、特定の課題に取り組むために設置される特別チームのこと）を構成しました。会長も地方体育会を回りながら会長選出方式と規定、体育会の法人化と予算の確保方策などを説明し、現場の意見を聞きました。大韓体育会は、おおむね自治体長と同時選挙が行えるよう団体長の体育会長兼職禁止法の施行を 2022 年に 3 年猶予する事と、安定的地方体育予算のための法改正が行われなければならないという声が高いと明らかにしました。国会文化体育観光委は体育の独立性と自律性を守り、政治に動員されないようにするという名分で自治体の首長の体育会長兼職禁止法案を作成しました。国会議員は一切体育長を引き受けられないように国会法に明示されている状況では、今回は自治体首長が体育会の冠を使えないようにしたわけです。

しかし、綿密な検討や代替なしに法改正を推し進めながら、むしろ体育を政治の手段にしたという批判が

出てきます。体育会長選挙が体育人の分裂や葛藤を招く余地もあります。地方体育会の支援を受けている787個の実業チームの指導者と選手なども神経を尖らせています。

大韓体育会所属のある競技団体事務局長は「今年末には大韓体育会所属の50以上の加盟団体の会長選挙も行われる。選挙人団の規模が非常に大きいだろう。地方体育会長選挙まで重なって体育界に多大な政治費用が発生するものと見られる」と懸念しています。

原文出所

http://www.hani.co.kr/arti/sports/sports_general/889423.html#csidx01bb5748ca7f0919cf427d83de5c91b

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com